

Good writing のための評価基準：トレイト別・基準説明

出典：
田中真理・阿部新(2014)
『Good Writingへのパスポート
－読み手と構成を意識した日本語ライティング－』
くろしお出版，巻末資料

[ライティングの設定]

誰に向かって、何を、どのモードを使って、どのような場で(どこに)、述べるのか

- (例えば、「新生生に向かって、大学生のアルバイトとしてはどんなアルバイトがあるのかを、分類というタイプの説明モードを使って、「新生生ハンドブック」に、紹介する」、「大学新聞の読者に向かって、大学に改善して欲しいことを、論証モードを使って、大学新聞に、提案し投稿する」など)

トレイト		基準説明	補足説明
A 読み手	配慮	読み手を意識して書かれているか(例えば、大学新聞に投稿するという課題では、その読者など) 読み手に対する配慮があるか(例えば、読み手にないと思われる文化的背景を説明する)	
	面白さ	読み手にとって興味深いか： • 創造性、オリジナリティ、新鮮さなどがあるか • 読んでいて、引き込まれるか	
B 内容	メイン・アイデア	メイン・アイデア(一番言いたいこと)が明確か： • 文章全体を通して一貫性があるか • 妥当性(正確さも含む)、説得力があるか	
	トピック・センテンス	トピック・センテンスの内容が適切で明確か トピック・センテンスの位置が適切か(本論ではパラグラフの冒頭付近)	
	サポート	メイン・アイデアやトピック・センテンスが適切にサポートされているか： • 理由、例、説明、データなどが適切で(正確さも含む)、客観性、説得力があるか	
C モード	モード・タイプの選択	適切なモードが選ばれているか： • ナラティブ/描写/説明(手順・過程、定義、分類・例示、比較・対照、原因・結果)/論証	
	モード・タイプの展開	選んだモードに合った展開がなされているか(D「構成」とも関係)： • 比較・対照：block style と point-by-point style など	
D 構成・結束性	文章全体の構成(マクロ構成)	構成	マクロ構成が明確か： • 「序論」(Introduction)と「本論」(Body)と「結論」(Conclusion)に相当する部分があるか • 上記3つのバランスがとれているか(目安として、1:3~5:1) • 文章全体が論理的・意味的につながっているか
		一貫性	• 序論と結論が呼応しているか(メイン・アイデアが「結論」で再度言及されているか)
		メタ言語	• 「予告のメタ言語」(「まず」「次に〜について述べる」など)や「まとめのメタ言語」(「以上述べたように」「以上、〜について述べた」など)が効果的に使われているか
	パラグラフ間	結束性	パラグラフとパラグラフのつながりがスムーズか： • 「比較・対照」のタイプの場合： (1) 比較する2つのものや観点が同じ順序で述べられているか (2) block style あるいは point by point style が適切に選ばれているか
		メタ言語	• パラグラフとパラグラフをつなぐ「メタ言語」(「まず」「次に」「以上のように」など)が効果的に使われているか • パラグラフとパラグラフをつなぐ「メタ言語」がなくても、パラグラフが自然につながっているか
		指示語	• 指示語(「この、その、これ、それ、これら、それら」)が効果的に使われているか • 指示語の指している対象が明確か

パラグラフ内(ミクロ構成)	構成	パラグラフが1文で終わることなく、2文以上で構成されているか(特に序論や結論)		
E 日本語(言語面)	結束性	パラグラフ内の文と文のつながりがスムーズか： • 文と文をつなぐ接続表現(「たとえば」「しかし」「したがって」「特に」など)が効果的に使われているか	• 「接続表現」「指示語」の効果的な使用は、結束性を高めるための手段の1つである	
	接続表現	指示語(「この、その、これ、それ、これら、それら」)が効果的に使われているか • 指示語の指している対象が明確か		
a 正確さ	文法	文法が正確か： • 助詞の使用、動詞・助動詞・形容詞・形容動詞の活用形が正確か	• ねじれ文は、主語と述語の位置が離れた場合に起こりやすい。適切な長さの文にする工夫が必要である	
	文型・構文	文が正確に組み立てられているか： • 複文の主節と従節の関係や呼応関係(「なぜなら、…からである」など)が正確か • 文がねじれていないか：自動詞・他動詞の違い(例えば、「鎖国は江戸時代初期に始めた」など)、受身と格助詞(例えば、「この法律は〇〇省によって制定した」など)		
	語彙・表現	語彙・表現が正確か		
	表記	表記(漢字・ひらがな・カタカナなど)が正確か 誤字・脱字・漢字の変換ミスがないか		
	b 適切さ(レジスター)	文型・構文	単文の羅列や同じ文型の繰り返しではなく、バラエティー豊かな文型が使われているか 日本語らしい構文が使われているか 文の長さが適切で、読みやすいか 意味が複数の解釈できる多義文になっていないか	• 「レジスター」とは、話し手や書き手が場面や相手によって使い分ける表現やスタイルなどを指す
		語彙・表現	語彙・表現が適切に使われているか： • 「話しことば」と「書きことば」の区別ができていないか(例えば、「A氏が述べてるように…」など) • 標準語で書かれているか(例えば、「簡単に調べられる」など) • 不適切な敬意表現がないか(例えば、「遠隔授業はどなたにとっても便利」など) • 同じ語彙・表現が繰り返し使われていないか • フォーマルな文章にインフォーマルな略語が使われていないか(例えば、「スマホ」など)	
	文末スタイル	文末スタイル(「普通体」あるいは「丁寧体」)が適切に使われ、基本的に統一されているか		
	表記	漢字やカナ： • 漢字で書くべき語や、ひらがなにすべき語(「こと」「もの」など)が適切に書かれているか • 使用した漢字やかなの使い方が統一されているか 句読点(、)・符号(「」や()など)が適切に、かつ統一して使われているか 数字(一、二、三と1, 2, 3)や西暦と元号などが適切に、かつ統一して使われているか		